

国体新聞

梶山 一大

必見！福井国体前日の仕事人

人もの報道関係者が集まっていた。そこでは、「国体においてどのようなルールで安全に取材、放送するか」という全国報道員会議が開かれており、室内はまさに仕事場の緊張感や重みを感じられ、その場に在るすべての人の、国体をもっと全国に知ってほしいという熱意がひしひ

しと伝わった。福井県内でも多くのボランティアの方々が集まり、必ず成功させるという気持ちでオーラとして出ており、その場は笑顔が絶えない、とても温かみのある場所になっていた

全国報道員会議が行われた室内の様子←

二〇一八年九月二十九日から始まる第七十三回福井しあわせ元気国体。福井駅には多くの人々が来ており、全ての人が明日から開催される国体に夢を募らせていた。

大会前日に、福井駅近くにある「AOSSA」という建物の中には、約二〇〇



福井国体開催 選手団への激励会

福井県福井市にある、iOスタジアム（福井県営陸上競技場）で行われた、福井しあわせ元気国体の開会式。台風が来ている中でも、会場には多くの人が訪れていた。天皇陛下のご臨席を賜ることもあつてか厳重な警備と持ち物検査が行われた。

くで、茨城県の競技力向上対策本部主催で「激励のつどい」が行われた。激励会には、茨城県選手団のほかには大井川県知事や県議会議員も集まり、とても賑やかな場になっていた。

選手団は、剣道少年女子（大将）の柿元選手の掛け声のもと本番に向けて、大きな声をあげ健闘を誓った。



伝統を伝えるために

開会式では、福井県の各市から福井国体を盛り上げるために、そして伝統をこれから伝えるために様々な伝統芸能が集まって会場を盛り上げた。

集まった伝統芸能はどれも美しく、とても幸せな気持ちにさせてくれた。福井県坂井市の「三國湊 帯のまち流し」や越前町の「おたまつり」からOTAIKO響などが参加し、迫力のある会場になった。

来場した人、ボランティアとして参加した人、盛り上げるために参加した人、選手として参加した人様々な目的を持った人が集まったその会場には、台風にも負けないくらいの活気と元気であふれていた。

次の国体の開催地は茨城県。いきいき茨城ゆめ国体という名前前で開催される。だからこそ、活き活きと元気に、夢のような大会になると思っている。



福井県が国内に自信をもつてピルできる太鼓イベント「OTAIKO響」←